

2024年3月11日
東宝株式会社

アジア映画で初の快挙 『ゴジラ-1.0』 第96回アカデミー賞 「視覚効果賞」受賞のお知らせ

当社が製作いたしました『ゴジラ-1.0』が「第96回アカデミー賞 視覚効果賞」を受賞しましたのでお知らせいたします。

アジア圏の映画で同賞を受賞した実績はなく、映画史上初の快挙となりました。

また、長い歴史を持つ「アカデミー賞」の中で、監督として「視覚効果賞」を受賞したのは『2001年宇宙の旅』のスタンリー・キューブリックのみであり、山崎監督は55年ぶり、史上2人目の受賞監督となります。「視覚効果賞」はその年に公開された映画の中で最も優れた視覚効果を用いた作品に与えられる栄誉で、アカデミー賞で最も注目される部門のひとつです。過去には『スター・ウォーズ』、『タイタニック』、『アバター』などの映画史を代表する傑作が受賞してきました。

70周年記念作品であり、日本製作の実写版ゴジラ30作品目さらには“令和”で最初のゴジラとなる最新作『ゴジラ-1.0』。3月3日（日）までの公開122日間で観客動員392万人、興行収入60億円を突破。2023年に日本で公開された実写映画ランキングで第1位（※興行通信社調べ）となる大ヒットを記録しております。

米では現地時間の2月1日（木）までの63日間で上映が終了し、最終興行収入は5,641万ドル。北米で公開された邦画実写映画の興行収入記録を大きく塗り替え、歴代1位。北米公開の外国語の実写映画の歴代興収の中でも3位という記録を残しました。そのほか、世界各地で“ゴジラ旋風”を巻き起こし、日本興収も含めた全世界累計の興行収入で160億円（※）を突破しております。（※3/11時点でのレートで換算）

当社グループは今後も「Entertainment for YOU 世界中のお客様に 感動を」をスローガンとし、「健全な娯楽を広く大衆に提供すること」をパーパスに掲げ、世界規模のエンタテインメント企業として東宝のブランド価値向上と飛躍的な成長を目指します。

【作品概要】

- タイトル： 『ゴジラ-1.0』
英語表記：『GODZILLA MINUS ONE』
モノクロ映像版：『ゴジラ-1.0/C』
- キャスト： 神木隆之介 浜辺美波
山田裕貴 青木崇高
吉岡秀隆 安藤サクラ 佐々木蔵之介
- 監督 脚本 VFX： 山崎貴
- 音楽： 佐藤直紀
- 制作プロダクション： TOHO スタジオ、ROBOT
- 配給： 東宝
- コピーライト： ©2023 TOHO CO., LTD.
- 公開日： 2023年11月3日（金・祝）より全国の映画館にて大ヒット公開中

本件に関するお問い合わせ先
東宝株式会社 広報・IR 室
pr_ir@toho.co.jp